

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 大門高等学校アクションプラン —1—		
重点項目	学習活動	
重点課題	学習習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・入学当初は大多数の生徒が学習に意欲的であるが、学習についていけない生徒や家庭学習時間を確保できない生徒が徐々に増加する傾向にある。各教科で高校での学習方法を最初に学ばせたりしているものの、学習意欲が持続しない生徒が少なくない。 ・課題を課したり面談を行ったりして家庭学習の習慣を身に付けさせるようにしているが、課題を提出することだけを目的とする生徒もおり、会得した内容に興味を持って学習を深めたり自発的な学習に繋がったりといった生徒はまだまだ少ない。 	
達成目標	① 毎日の家庭学習時間の平均が2時間以上の生徒の割合	② 年度当初より学習の理解が深まったと実感する生徒の割合
	1学年 70%以上	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活状況の把握や面談を中心とした個人指導を確立する。 ・毎日の生活状況を振り返らせ、学習習慣が身につけていない生徒に対しては学習状況が改善するよう、授業やHRおよび個人面談等を通してきめ細かく指導する。 ・教科間で課題の分量や提出期限を調整し、計画的に家庭学習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活状況を記録することで各自の学習時間を把握させ、家庭学習に必要な時間を確保するよう意識させる。 ・小テストやノート点検を通して一人ひとりの学習状況を把握し、つまづきや苦手感覚の早期解消を図る。 ・生徒の学習意欲を喚起するような話題や題材を、授業や発展的な課題に盛り込むよう工夫する。

令和5年度 大門高等学校アクションプラン —2—		
重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の確立及び学校行事や委員会活動の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が確立していない生徒が見受けられる。 ・大人しく控えめで真面目な生徒は多いが、自ら進んで意見を述べたり行動できる生徒が少ない。 ・委員会の活動に前年踏襲が多く、新たな取り組みが少ない。 	
達成目標	① 挨拶や時間厳守、身なりを整えることを意識して学校生活を送っていると感じている生徒の割合	② 学校行事や委員会活動に積極的に参加していると感じている生徒の割合
	80%以上	70%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣（挨拶、時間、服装、頭髪等）を確立することの大切さを折にふれて生徒に伝えていく。 ・全教職員が頭髪・服装指導等の生徒指導をスムーズに行えるように共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の意見に耳を傾け、それを反映できるような学校行事となるように生徒会活動を充実させる。 ・各種委員会の活動を活性化させ、生徒の主體的な運営と実践及び活動を通して学校生活や諸活動に対する生徒の意欲や取り組む姿勢の向上を図る。

令和5年度 大門高等学校アクションプラン —3—

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路目標の確立及び実現	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次における進路意識が乏しく、早期から具体的な目標を持ち、対策を実践していくことが難しい。 ・自身の適性を考えたり興味ある進路先について調べたりして、進路目標の実現のための積極的な努力を行う生徒が少ない。 	
達成目標	① 3年次 進路志望の実現達成 志望進路決定者の割合 70%以上	② 1、2年次 進路目標の明確化 1年次：学びたい分野決定 2年次：志望校の決定 1年次 80%以上 2年次 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣と学力の状況を把握し、個人面接などを利用して学習意欲を促すとともに十分な情報と適切なアドバイスのもと進路先の入念な検討を行う。 ・校内模試、外部模試を活用して振り返りを促し、着実に実力を向上させ、進路目標の実現を図る。 ・全校体制で共通理解を図りながら、学習・進路に関わる指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学ガイダンス・進路講演会・進路研修旅行等を活用し進路意識の向上を図る。 ・本校卒業生や保護者の方から直接話を聞く機会を設け、大学での学びや社会人としての生き方を実感させる。 ・主体的な進路研究を図るために、計画的にキャリア教育を推進し、キャリアパスポートを作成させる。

令和5年度 大門高等学校アクションプラン —4—

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の活性化と地域活動や校外活動の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に加入している生徒の割合は92.9%であり、2・3年でも継続している生徒が多い。 ・部活動に真剣に取り組んだ生徒は進路実績も良好である。 ・地域でのボランティア活動や交流を計画する生徒やそれに参加する生徒がいる。 ・コロナ禍で中止されていた行政主催の研修やボランティア活動が再開される見込みがある。 	
達成目標	① 部活動を通して自己の成長が感じられると思う生徒の割合 80%以上	② 地域活動や校外活動に参加した生徒の割合 60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生の入部ミスマッチを防ぐことや経験者を早期に活動させるために、中学時の部活動と高校での入部希望の予備調査を行う。 ・部活動にすぐに参加できるように、体育的活動の後は、更衣前にSTができるよう共通理解を図る。 ・生徒会部活動費の増額を図る。 ・部活動の活性化をめざし、内容の充実とリーダーの養成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣地域での清掃活動等、地域と連携した活動を企画する。 ・近隣の老人ホームを訪問して交流を深める。 ・保育園児にふさわしい絵本を選び、読み聞かせボランティアを行う。 ・行政から紹介されるボランティア養成セミナー等に参加するよう積極的に呼びかける。 ・各学年、クラス等でボランティア活動を計画し実施する。

重点項目	その他（情報教育）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信能力の育成 ・教員のICT活用能力の向上 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生の「総合的な探究の時間」などで情報を収集し調査結果をまとめる学習活動を行っているが、検索結果の羅列に終わっている場合が少なくない。 ・大多数の教職員が授業等でICT機器を使用しているが、教職員が教材提示等に用いる場合が多く、生徒が使用する場面は少ない。 	
達成目標	① 生徒が探究活動や情報発信に取り組む機会を増やし、情報活用スキルを向上させる。	② 教職員によるタブレット端末等のICT機器の効果的な活用を促進する。
	1・2年生全員が、授業や「総合的な探究の時間」で学んだ内容2つ以上について、それぞれ適切な方法で情報発信する。	生徒が「1人1台タブレット端末」を使用する授業を、全ての教員が1回以上実施する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の機会を複数回設けることで経験を積ませ、スキル向上を図る。 ・目的に合わせて情報の形態を工夫することを経験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の要望を踏まえてICT機器を使い易い環境を整える。 ・講習会等を通して教材や授業実践例を紹介するなど、タブレット端末の活用を促進する。